

私は“お金”と聞くと、初めてお金を拾った小学校2年生の時の思い出します。私は友達と二人で近所の公園で遊んでいました。すると友達が、  
「見て見て。あそこに財布があるよ。」

二人で近付いてみると小さな財布が落ちていました。拾ってそっと中身を見てみると、小銭が全部で1,000円ぐらい入っていました。

「別にそんなに入っていないから、このままもらっちゃおうかな。」  
などという考えも頭によぎりました。そのころ小さかった私は、おこづかいをもらっていなかったからです。二人で考えた末に、家へ持って帰ってお母さんに相談することにしました。お母さんにどうしようかと尋ねると、  
「どんなに少ないお金でも、交番に届けなくちゃいけないよ。」  
と言いました。話し合って明日一緒に交番へ届けることにしました。

翌日の日曜日の朝、お母さんと二人で近くの交番に行きました。初めて入った交番にドキドキしていると、一人のおまわりさんが、  
「お早うございます。どうしましたか？」

とやさしい声をかけてくれました。近くの公園で財布を拾ったことを伝えると、書類を書くことになりました。名前・住所・拾った場所・日時など、たくさんの質問に答えなければなりません。書き終わって最後に拾った財布をわたすと、おまわりさんは、  
「有難うございました。」

と笑顔でおくってくれました。この言葉を聞いた時、面倒だなとか届けなきゃよかったなという気持ちは一瞬でなくなりました。届けてよかったんだという温かい気持ちにつつまれてとてもうれしかったです。

半年後、結局財布の持ち主は見つからず、財布をもらうことになりました。財布の中身のお金は、拾った友達と二人で半分ずつ分けることにしました。手元に残ったのは500円とちょっとでした。このお金をどうしようかと悩んでいると、

「チューリップを買って庭に植えたらどう？ 春になったらきっと綺麗な花が咲くよ。」

と母が助言してくれて、チューリップの球根を買うことにしました。私のお金

だけでは少し少なかったので、お母さんがお金を出してくれてたくさんの球根を植えることができました。

春、私は小学3年生になりました。植えたチューリップの花も、赤・黄・紫・白・ピンクと色鮮やかに咲きました。花が咲いたときは本当にうれしかったです。さらにうれしいことがありました。道を通る人が家の庭に咲いているチューリップを見て、

「綺麗なチューリップですねえ。」

と言ってくれたことです。なかには、わざわざ立ち止まってずっとチューリップの花をじっと見てにこにこしながら道を歩いていく人もいました。窓からその光景を見ていた私はとても幸せな気持ちになりました。庭だけでなく、家の中にいけてかざったり、自分のクラスにある花瓶にかざったり、友達にあげたりしました。返ってくる、

「有難う。」

という感謝の言葉を聞くたびにうれしくなります。そしてあの拾った時、勝手にとらないで交番に届けてよかったと思うのです。

もし、交番に届けないでそのまま友達と半分に分けていたら、私はとても後悔すると思います。きっと罪悪感からそのお金を使えず、一生心に残ると思います。届ける前と届けた後、どちらも返ってくるお金の金額は同じなのに、お金の大切さが加わって返ってくるのだと思います。持ち主が見つかったら、見つけてよかったと思うでしょう。あの時の正直さとお母さんの言葉“少ない額でもお金はお金”はいつまでも忘れません。活きたお金の使い方とはこういうことではないかと私は考えます。どんなに少ないお金でも人々を幸せにすることができる。ほんの少しの勇気でお金の大切さがわかりました。それはずっと心の中に残ると思います。

毎年春に咲くチューリップは私の宝物です。